

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 6月号
令和7年 5月30日発行

人は人とのかかわりによって人となる

校長 小林 亮介

木々の緑が色濃くなる時期となりました。保護者の皆様には本校の教育活動に御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。5月も終わり、明日から6月に入ります。早いもので1学期も折り返しを迎えます。校内では子どもたちの元気な声が響き、仲間と共に一生懸命に取り組んでいます。6月7日（土）には今年度2回目の学校公開を行います。御都合を付けて参観していただければ幸いです。

さて、本校の特色の一つに「縦割り活動」があります。縦割り班とは、1年生から6年生までの異なる学年の児童が合わさって班をつくり、様々な活動を通じて学年間の交流や協力を深める取り組みです。具体的な活動として、先日実施した縦割り班ハイクをはじめ、清掃活動や運動会、ロング遊びなどがあります。

縦割り班活動のねらいは

- ・異学年交流を通じて、協力することの大切さや思いやりの心を育てる。
- ・高学年にはリーダーシップや責任感、自己有用感を高める機会となる。
- ・低学年は上級生の行動を見て学び、他者との接し方を身に付ける。
- ・学校全体での一体感や連帯感を強める。

などが挙げられます。学校は「人と豊かにかかわり、自分で考え、誰かと協働し、実践できる場所」です。子どもたち一人一人、多様な場や活動を通して、自分自身のもつよさに気づき、成長を感じることができる学校を目指して日々取り組んでいます。

5月1日に縦割り班ハイクを実施しました。全校児童が奥氷川神社の境内で昼食をとり、氷川橋を渡り、日原方面へ遊歩道を歩き、北氷川橋を渡って役場前の河原に降りて活動しました。場所はとても近いところですが、とても充実した内容でした。高学年の下級生を思いやる行動が随所に見られ、人の役に立つ喜びを感じていました。低学年は高学年に憧れの気持ちをもち、振り返りの時間に感謝の気持ちを素直に表現していました。学校全体が一つの大きな家族のような雰囲気でのハイクを終えることができました。

保護者会やPTA総会において御説明いたしましたが、氷川小学校の学校経営の柱に「子どもたち一人一人、幸せな人生を送る土台づくり」があります。本校が取り組んでいる縦割り班活動は、上級生と下級生が互いに学び合い、学年を超えた交流を通じて児童の人間関係形成や社会性の向上、リーダーシップの育成に大きな役割を果たしていると確信しています。「幸せな人生を送る土台づくり」の手だての一つとお考えください。

今後も基礎・基本を大切にした学習、基本的な生活習慣、人との豊かなかかわり、思いやりの心、感謝の気持ち、健康や体力づくりなど、バランスよく「知・徳・体」を育んで参ります。

